



ihi™ WebFOCUS®

WebFOCUS App Studio インストールガイド

バージョン 9.2 | September 2023

目次

1. ibi™ WebFOCUS® および ibi™ WebFOCUS® App Studio の概要	5
WebFOCUS および WebFOCUS App Studio について	5
WebFOCUS および WebFOCUS App Studio の概要とアーキテクチャ	6
WebFOCUS App Studio コンポーネント.....	6
WebFOCUS 環境およびコンポーネント.....	6
WebFOCUS の処理.....	7
WebFOCUS App Studio の処理.....	8
インストールおよび構成手順	8
インストールおよび構成手順.....	9
2. WebFOCUS App Studio のインストール	11
システム要件	11
ハードウェア要件.....	12
ソフトウェア要件.....	12
付属の他社製コンポーネント.....	13
App Studio のインストール	13
WebFOCUS App Studio の WebFOCUS と同一のマシンへのインストール.....	13
インストールの実行.....	14
WebFOCUS App Studio のディレクトリ構造.....	14
インストールログファイル.....	15
App Studio の確認	15
WebFOCUS App Studio のサイレントインストールおよびアンインストール	15
3. WebFOCUS App Studio ヘルプの構成	19
オンラインヘルプのオンプレミス展開	19
要件.....	20
Tomcat でのオンラインヘルプ Web アプリケーションの展開	20
Tomcat のコンテキストファイルを使用した オンラインヘルプ Web アプリケーションの展 開	22
ヘルプの構成	23
A. WebFOCUS App Studio のトラブルシューティング	25

トラブルシューティングのヒント	25
起動の失敗.....	25
WebFOCUS App Studio の開始.....	26
WebFOCUS App Studio で複数ブラウザサポートを有効にする手動登録.....	26
Selenium ソフトウェアおよびドライバ実行ファイルの更新.....	27
WebFOCUS App Studio トレースユーティリティ	31
Legal and Third-Party Notices	33

1

ibi™ WebFOCUS® および ibi™ WebFOCUS® App Studio の概要

この章では、WebFOCUS® と WebFOCUS® App Studio の概要について説明します。

トピックス

- ❑ [WebFOCUS および WebFOCUS App Studio について](#)
- ❑ [WebFOCUS および WebFOCUS App Studio の概要とアーキテクチャ](#)
- ❑ [インストールおよび構成手順](#)

WebFOCUS および WebFOCUS App Studio について

WebFOCUS は、データアクセスおよびレポート作成を一体化した Web ベースのレポーティングシステムです。ユーザはこの製品を通じて各種データに接続することができます。

WebFOCUS は、使用するプラットフォームおよびデータフォーマットの種類に関係なく、あらゆる情報にアクセスして処理を行い、Web ブラウザまたは PDF、HTML、Excel などの出力フォーマットで情報をユーザに提供します。

App Studio は、WebFOCUS アプリケーションを作成するための Windows ベースの開発環境です。App Studio は、インターフェースデザイン、ビジネスロジック、データ操作を支援する、直観的な操作のグラフィカル機能を備えています。開発者は App Studio を使用して、ユーザがレポートを作成して表示するための強力な Web ページインターフェースを作成することができます。

WebFOCUS のデータアクセス、ネットワーク通信、サーバ処理は、WebFOCUS テクノロジーにより実現されています。異なる種類のオペレーティングシステム、データベース、ファイルシステム、ファイルフォーマット、ネットワークが使用されている場合でも、この WebFOCUS テクノロジーにより、その複雑性や非互換性に関係なくデータアクセスが可能になります。

WebFOCUS テクノロジーは、35 種類を超えるプラットフォームで、FOCUS、Microsoft SQL Server、Sybase、Oracle、Informix、Db2 をはじめとする 65 種類以上のデータベースフォーマットへのローカルおよびリモートアクセスを提供します。

WebFOCUS および WebFOCUS App Studio の概要とアーキテクチャ

App Studio は、WebFOCUS のアプリケーションを作成、管理するために使用されます。したがって、通常は、WebFOCUS が企業に導入済みであるか、今後導入予定があることが前提になりますが、これは必須ではありません。また、App Studio のアーキテクチャおよび機能は、WebFOCUS のアーキテクチャに基づいています。

WebFOCUS App Studio コンポーネント

App Studio の開発と管理は、次の 2 つの要素で構成されています。

- ❑ **App Studio** WebFOCUS アプリケーションを構成、作成するためのグラフィカルな開発機能およびコード生成機能を提供します。

このグラフィカルな開発機能およびコード生成機能は、WebFOCUS 環境に接続しますが、実際にレポートを処理し、データにアクセスすることはありません。

- ❑ **WebFOCUS 環境** App Studio のインストール後、企業のネットワーク上にインストールされている WebFOCUS 環境に接続することも、ローカルマシンにインストールされている WebFOCUS 環境に接続することもできます。

その他のエディションの場合、App Studio は別途インストールした WebFOCUS 環境にアクセスするよう構成します。この手順は、App Studio から実行します。

WebFOCUS 環境およびコンポーネント

WebFOCUS 環境では、WebFOCUS は Web サーバと Application Server (いずれかまたは両方) をデータに接続します。エンドユーザは、Web ブラウザを介して WebFOCUS アプリケーションにアクセスします。企業には、複数の WebFOCUS 環境が存在する場合があります。各環境は、次の要素で構成されています。

- ❑ **他社製 Web サーバと Application Server (いずれかまたは両方)** ユーザは、Web サーバと Application Server (いずれかまたは両方) へのリクエストを作成して、WebFOCUS にアクセスします。WebFOCUS 機能は、Java Servlet コールを使用して実装することができます。App Studio と WebFOCUS の通信も、同様に Web サーバと Application Server (いずれかまたは両方) を介して行います。

Windows 対応の WebFOCUS および App Studio には Apache Tomcat が同梱されているため、Web サーバや Application Server を別途用意する必要はありません。Apache Tomcat は、App Studio が Web サーバおよび Application Server として使用可能な Servlet コンテナです。

注意：静的な HTML ファイルや GIF ファイルなどの従来の Web コンテンツは、Web サーバが処理します。Application Server は通常、Java やその他のプロセスを処理しますが、その多くは従来の Web コンテンツを処理することもできます。Application Server が従来の Web コンテンツを処理することができる場合、Web サーバは必要ありません。WebFOCUS のマニュアルでは、「Application Server」という用語は、Application Server または Servlet コンテナのいずれかの意味で使用します。Servlet コンテナは通常、Application Server が処理可能なもののサブセットを処理します。

❑ **ibi™ WebFOCUS® Client** Web サーバと Application Server (いずれかまたは両方) に常駐します。ユーザが Web ページまたは App Studio から Web サーバにリクエストを送信すると、WebFOCUS Client がリクエストを受信し、これを処理して ibi™ WebFOCUS® Reporting Server に送信します。WebFOCUS Client の接続は、Java Servlet を使用して実装することができます。また、WebFOCUS Client には、他の WebFOCUS 製品およびインターフェースが含まれる場合があります。

❑ **WebFOCUS Reporting Server** WebFOCUS Reporting Server は、データアクセス、データ処理、レポート生成機能を提供します。WebFOCUS Reporting Server は、データへのアクセスが可能なマシン上に常駐します。WebFOCUS 環境には複数の WebFOCUS Reporting Server が存在する場合があります。

WebFOCUS は、分散アーキテクチャを採用しています。つまり、WebFOCUS Client と WebFOCUS Reporting Server は、同一オペレーティングシステムの同一マシンにインストールすることも、異なるオペレーティングシステムの複数のマシンに分散することもできます。

WebFOCUS コンポーネントおよび構成オプションについての詳細は、使用するプラットフォームに関連する WebFOCUS のインストールと構成に関するマニュアルを参照してください。

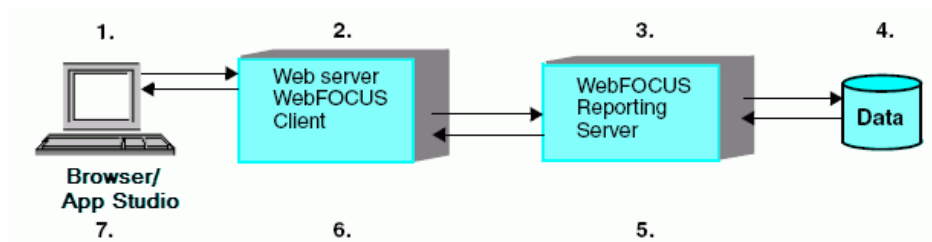
注意：通信が正常に行われるためには、App Studio を含めたすべての WebFOCUS コンポーネントのバージョン番号が同一である必要があります。

WebFOCUS の処理

次の手順は下図に対応しており、WebFOCUS または App Studio がリクエストを処理する方法を説明しています。

1. ユーザは、Web ページ上のリンクやフォームまたは App Studio から WebFOCUS Servlet を呼び出すことで、リクエストとパラメータを送信します。
2. リクエストとパラメータは、Web サーバまたは Application Server 上の WebFOCUS Client に送信されます。ここでパラメータが処理され、WebFOCUS Reporting Server に送信するリクエストが作成されます。

3. WebFOCUS Reporting Server は、リクエストを受信、処理し、必要なデータにアクセスします。
4. リクエストの処理に必要なデータがデータソースから取得されます。
5. WebFOCUS Reporting Server は、取得したデータを使用してユーザからのリクエストを処理します。
6. リクエストの結果が、WebFOCUS Client に返されます。
7. リクエストの結果が、ユーザに返されます。



WebFOCUS App Studio の処理

App Studio のリクエスト処理方法は、WebFOCUS と同様です。App Studio は、WebFOCUS Servlet リクエストを受信するよう構成された Web サーバと Application Server (いずれかまたは両方) と通信します。次に、Servlet が WebFOCUS Reporting Server に接続して、リクエストを処理します。

Web サーバや Application Server は、App Studio をインストールしたマシン上にインストールすることも、企業内の別のマシン上にインストールすることもできます。

App Studio を構成することで、ネットワーク上の他の WebFOCUS 環境に接続することができます。接続後、リモートマシン上でファイルを作成、編集し、[データサーバ] エリアでのアプリケーションの開発や、[ドメイン] エリアでのコンテンツの開発および管理を行うことができます。

App Studio の構成と開発環境についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® App Studio 利用ガイド』を参照してください。 .

インストールおよび構成手順

App Studio のインストールおよび構成の手順は、アプリケーション開発計画により異なります。

各開発者のマシンに App Studio をインストールし、各 App Studio マシンとネットワーク上の WebFOCUS 環境との接続を設定します。データにアクセスするためには、この WebFOCUS 環境の WebFOCUS Reporting Server を構成します。

- ❑ **WebFOCUS マシンへのインストール** WebFOCUS のインストールおよび構成の終了後に App Studio をインストールします。App Studio は、インストール済みの WebFOCUS 環境に接続します。

インストールおよび構成手順

次の手順を実行して、App Studio のインストールと構成を行います。

1. すべての要件が満たされていることを確認します (11 ページの「[WebFOCUS App Studio のインストール](#)」を参照)。
2. App Studio のインストールを実行します (11 ページの「[WebFOCUS App Studio のインストール](#)」を参照)。
3. App Studio を起動します。
4. 開発に使用する WebFOCUS 環境との接続を設定します。

2

WebFOCUS App Studio のインストール

この章では、App Studio のインストールプログラムの実行方法について説明します。

重要: バージョン 9.0.0 以降、WebFOCUS のシステムファイル構成に `ibi_html` ディレクトリ (`drive:\ibi\WebFOCUS\release\WebFOCUS`) は含まれません (ここで、`release` はインストールされた WebFOCUS のリリース番号です)。 `ibi_html` ディレクトリにカスタムスタイルシートファイルまたはその他ファイルが格納されている場合は、WebFOCUS バージョン 9.0.0 以降のインストールまたはアップグレード前に、これらのファイルをこのディレクトリから WebFOCUS リポジトリにアップロードする必要があります。この予防措置を実行しない場合、`ibi_html` ディレクトリに格納されたカスタムファイルが失われます。

カスタムスタイルシートファイルは、これら呼び出すレポートと同一ワークスペース、または共通ワークスペース (スタイルシートが複数ワークスペースのコンテンツをサポートする場合) にコピーすることをお勧めします。また、既存プロシジャ内のこれらのカスタムスタイルシートファイルへのリンクについても、新しい格納先を指定するように修正する必要があります。詳細は、『`ibi™ WebFOCUS®` 利用ガイド』の「ファイルのアップロード」を参照してください。

トピックス

- ☐ システム要件
- ☐ App Studio のインストール
- ☐ App Studio の確認
- ☐ WebFOCUS App Studio のサイレントインストールおよびアンインストール

システム要件

インストールを実行できるのは、Windows マシンの管理者のみです。

次の要件を読んで、使用するマシンで App Studio を実行可能であることを確認してください。

ハードウェア要件

App Studio は、64 ビットのアプリケーションです。使用する Windows マシンは、次のハードウェア要件を満たす必要があります。

- ❑ 2 GHz 以上のデュアルコア 64 ビット (x64) のプロセッサ
- ❑ 8 GB の RAM (推奨)
- ❑ ハードディスクの空き容量 8 GB
- ❑ App Studio の水平解像度として 1500 ピクセル以上 (推奨)

ソフトウェア要件

使用する Windows マシンは、次のソフトウェア要件を満たす必要があります。

- ❑ **Windows 11、Windows 10、Windows 2022、Windows 2019、Windows 2016 Server エディション**
- ❑ **Adobe Reader** Adobe Reader XI (11)、Adobe Reader X (10)、Adobe DC は、App Studio で動作保証されています。
- ❑ **Adobe Flash Player** Adobe Flash Player 10 以降は、App Studio で動作保証されています。Active PDF レポート出力フォーマットに必要です。

Adobe Flash Player についての詳細、および 64 ビット版のブラウザに関するサポート状況を確認するには、Adobe の Web サイトを参照してください。

<http://www.adobe.com>

注意：App Studio は、Visual Studio を使用して開発され、Visual Studio 2012 の Visual C++ 再頒布可能パッケージが必要です。Visual C++ 再頒布可能パッケージからは、Visual C++ ライブラリのランタイムコンポーネントがインストールされます。これらのランタイムコンポーネントは、Visual Studio 2012 がインストールされていないコンピュータで、Visual Studio 2012 を使用して開発されたアプリケーションを実行するために必要です。ほとんどのマシンには必要なライブラリが存在します。ただし、App Studio を実行する際に、このアプリケーションの実行に必要な更新済みファイルがシステムに存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。

The program can't start because mfc110.dll is missing from your computer. Try reinstalling the program to fix this problem.

または

This application has failed to start because the application configuration is incorrect. Reinstalling the application might fix the problem.

この問題を解決するには、「<https://www.microsoft.com>」から Visual Studio 2012 x64 の Visual C++ 再頒布可能パッケージの最新アップデートをダウンロードしてインストールします。

付属の他社製コンポーネント

次の他社製コンポーネントが、App Studio のエディションに同梱されています。

- ❑ **Oracle JRE 1.8.0_371** Oracle JRE の最新バージョンは、次の Web サイトから入手可能です。

<https://www.oracle.com/java/technologies/javase-jre8-downloads.html>

App Studio のインストール

インストールユーティリティを実行するには、次の 2 つの方法があります。

- ❑ **グラフィカル (GUI) インストール** デフォルト設定のインストールモードです。パラメータの入力を要求するダイアログボックスが表示されます。App Studio をはじめてインストールする場合は、GUI インストールを使用する必要があります。ここでは、App Studio の標準 GUI インストールについて説明します。
- ❑ **サイレントインストール** テキストファイルを指定してインストールを実行します。テキストファイルにインストールパラメータが記述されているため、GUI ダイアログボックスは表示されません。

WebFOCUS App Studio の WebFOCUS と同一のマシンへのインストール

WebFOCUS と App Studio を同一のマシンにインストールする場合は、次の手順を実行します。

1. 使用するマシンが WebFOCUS の要件を満たしていることを確認します。
2. WebFOCUS を完全にインストールし、構成します。
3. App Studio をインストールします。

インストールの実行

App Studio をインストールするには、次の手順を実行します。

注意： インストールを実行できるのは、Windows マシンの管理者のみです。

WebFOCUS App Studio のディレクトリ構造

インストールの終了後、ディレクトリ構造が作成されます。デフォルトのパスは、次のとおりです。

C:\¥ibi

次に挙げるのは、主要なサブディレクトリの一部です。

¥AppStudio92¥backup

アップグレード時に次のフォルダに既存のインストールファイル全体のバックアップが作成されます。

¥AppStudio92¥backup

複数のアップグレードを実行した場合、既存の最新バックアップの名前が、フォルダ名と後続の現在日付スタンプおよびタイムスタンプで変更されます。以下はその例です。

¥AppStudio92¥backup_files_09.22.2022.13.46¥

¥AppStudio92¥bin

WebFOCUS アプリケーションを作成するためのグラフィカルコンポーネントを格納します。

¥AppStudio92¥config

インストール情報が保存されている install.cfg ファイルを格納します。

¥AppStudio92¥jdk

インストールプログラムで使用する Java を格納します。

¥AppStudio92¥licenses

App Studio および他社製ソフトウェアコンポーネントのライセンスを格納します。

¥AppStudio92¥logs

ログファイルを格納する領域です。

¥AppStudio92¥temp

内部プロセス用の領域です。

¥AppStudio92¥Uninstall

App Studio のアンインストールに使用される製品コンポーネントを格納します。

¥AppStudio92¥utilities

その他の構成に使用される機能およびファイルを格納します。

インストールログファイル

App Studio は、Windows では次の場所にログファイルを作成します。

`drive:¥Users¥user_id¥AppStudio_Debug_date_time.log`

`drive:¥Users¥user_id¥App_Studio_Install_date_time.log`

説明

`user_id`

Windows のユーザ ID です。

`date_time`

ログファイルの作成日時です。

これらのログファイルには、App Studio のインストール情報が含まれます。インストールの問題で技術サポートに問い合わせる場合は、これらのログファイルを用意してください。

App Studio の確認

App Studio は、レポートの作成やレポート処理のために、WebFOCUS 環境に接続します。

- ❑ WebFOCUS がインストールされているマシンに App Studio をインストールすると、App Studio は、既存の WebFOCUS 環境を使用します。環境によっては、[WebFOCUS 環境のプロパティ] ダイアログボックスで、Web サーバのポート番号を指定したり、デフォルトの接続設定を変更したりする必要があります。

WebFOCUS App Studio のサイレントインストールおよびアンインストール

App Studio では、処理を自動化し、プロンプトを削除したサイレントモードでのインストールおよびアンインストールが可能です。サイレントインストールでは、パラメータを指定するためのダイアログボックスは表示されません。その代わりに、パラメータをテキストファイルで作成し、サイレントインストールの実行時に、このファイルを指定します。サイレントアンインストールでは、パラメータファイルを使用しません。

手順

App Studio をサイレントモードでインストールするには

重要：バージョン 9.0.0 以降、WebFOCUS のシステムファイル構成に `ibi_html` ディレクトリ (`drive:¥ibi¥WebFOCUS¥release¥WebFOCUS`) は含まれません (ここで、`release` はインストールされた WebFOCUS のリリース番号です)。`ibi_html` ディレクトリにカスタムスタイルシートファイルまたはその他ファイルが格納されている場合は、WebFOCUS バージョン 9.0.0 以降のインストールまたはアップグレード前に、これらのファイルをこのディレクトリから WebFOCUS リポジトリにアップロードする必要があります。

インストールをサイレントモードで実行するには、インストールパラメータを記述したファイルを作成する必要があります。

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. WebFOCUS App Studio バージョン 92 のインストールプログラム (例、`TIB_wf-as_release_win_x86_64.exe`) が存在するディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
TIB_wf-as_release_win_x86_64.exe -r drive:¥fullpath¥filename.properties
```

このコマンドはインタラクティブモードで実行され、`filename.properties` ファイルを作成します。このファイルは、以降の手順 3 で、サイレントモードの実行に使用します。

`filename.properties` の「`filename`」は、任意の名前に置き換えることができます。

注意：サイレントインストールを実行する前に、必ずプロパティファイルを生成し、すべてのプロパティが正しいことを確認します。

❑ プロパティファイルには、`.properties` という拡張子が付けられます。

❑ プロパティファイルの作成先をフルパスで指定する必要があります。

3. インストールをサイレントモードで実行するには、App Studio のインストールプログラム (例、`TIB_wf-as_release_win_x86_64.exe`) が格納されているディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
TIB_wf-as_release_win_x86_64.exe -i silent -f drive:¥fullpath  
¥filename.properties
```

手順**App Studio をサイレントモードでアンインストールするには**

アンインストールをサイレントモードで実行するには、[管理者として実行] オプションを使用してコマンドウィンドウを起動し、「-i silent」オプションを追加してアンインストール実行ファイルを実行します。

以下はその例です。

```
C:¥ibi¥AppStudio92¥Uninstall>Uninstall.exe -i silent
```


WebFOCUS App Studio ヘルプの構成

WebFOCUS App Studio ヘルプは、弊社のサーバでホストされるオンラインヘルプがデフォルト設定で利用されるよう構成されています。このヘルプの構成は、新規インストールにも更新インストールにも適用されます。インストールパッケージからヘルプファイルが除外されたため、インストールファイルのサイズが大幅に縮小され、ソフトウェアのインストールと構成に要する時間も大幅に短縮されます。

オンラインヘルプには次の利点があります。

- ❑ ホスト型ヘルプモデルでは、いつでも最新のオンラインヘルプコンテンツにアクセスできます。
- ❑ アップグレード配信モデルでは、製品ソフトウェアパッケージのサイズが減少し、インストールおよび構成手順が簡素化されます。
- ❑ オンラインヘルプのアクセスには、オンラインヘルプシステムをホストする弊社サーバへのセキュアな接続を使用します (HTTPS)。

トピックス

- ❑ [オンラインヘルプのオンプレミス展開](#)
 - ❑ [Tomcat でのオンラインヘルプ Web アプリケーションの展開](#)
 - ❑ [Tomcat のコンテキストファイルを使用した オンラインヘルプ Web アプリケーションの展開](#)
 - ❑ [ヘルプの構成](#)
-

オンラインヘルプのオンプレミス展開

ホスト型ヘルプの使用が制限されているユーザは、次の手順に従って、使用する内部 Application Server にオンラインヘルプをインストールします。

1. ドキュメントサイトに移動します。以下はその例です。

https://docs.tibco.com/products/tibco-webfocus-app-studio-release_number

2. 「Online Help」下で、ダウンロードアイコンをクリックしてヘルプの ZIP ファイルをダウンロードします。

要件

App Studio オンラインヘルプの要件は次のとおりです。

- ☐ Java 8
- ☐ サポート対象の Application Server

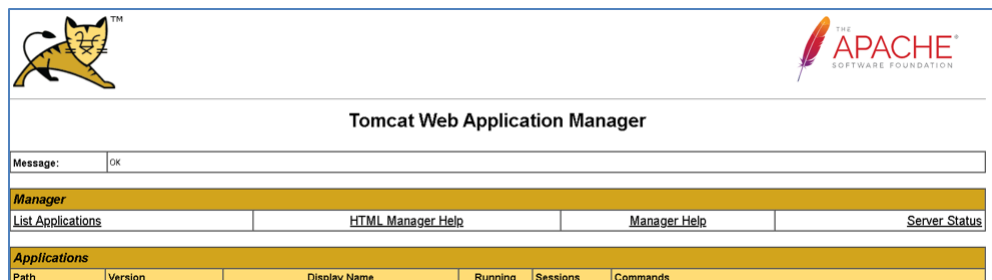
Tomcat でのオンラインヘルプ Web アプリケーションの展開

次の手順は、Tomcat Manager を使用して App Studio オンラインヘルプを展開する方法を示しています。

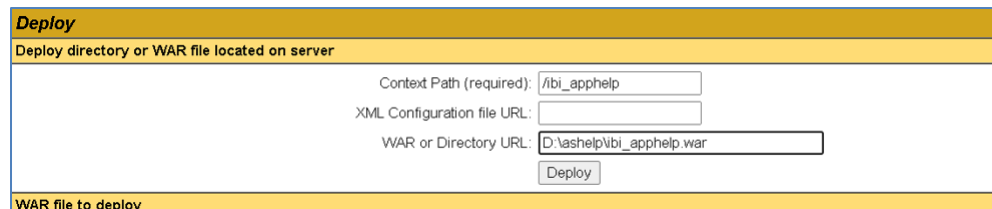
1. 次の URL を使用して Tomcat Manager に移動します。

<http://servername:port/manager>

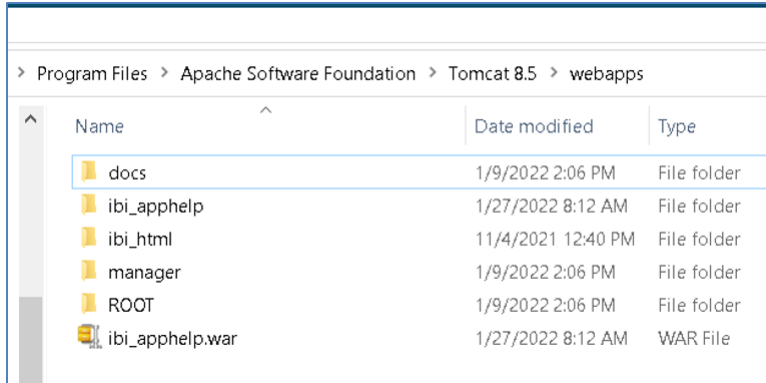
下図のようなページが表示されます。



2. 下図のように、Tomcat Manager ページの [Deploy] セクションに移動し、[Context Path] に /ibi_apphelp を指定し、[WAR or Directory URL] テキストボックスに App Studio Web アプリケーションのパスを指定します。



下図のように、App Studio オンラインヘルプアプリケーションが、Tomcat の [webapps] フォルダに展開されます。



App Studio オンラインヘルプ Web アプリケーションの Tomcat での展開が完了すると、次のメッセージが表示されます。

Tomcat Web Application Manager

OK - Deployed application at context path [/ibi_apphelp]

Tomcat Manager コンソールでも、下図のように、/ibi_apphelp のステータスが true になります。

/docs	None specified	Tomcat Documentation	true	Ⓜ	Start Stop Reload Undeploy
/ibi_apphelp	None specified		true	Ⓜ	Start Stop Reload Undeploy
					Expire sessions with idle ≥ 30 minutes

3. ブラウザから次の URL を指定し、App Studio オンラインヘルプが利用可能であることを確認します。

http://servername:port/ibi_apphelp/index.jsp, as shown in the following image.

下図のように、App Studio オンラインヘルプが表示されます。



Tomcat のコンテキストファイルを使用した オンラインヘルプ Web アプリケーションの展開

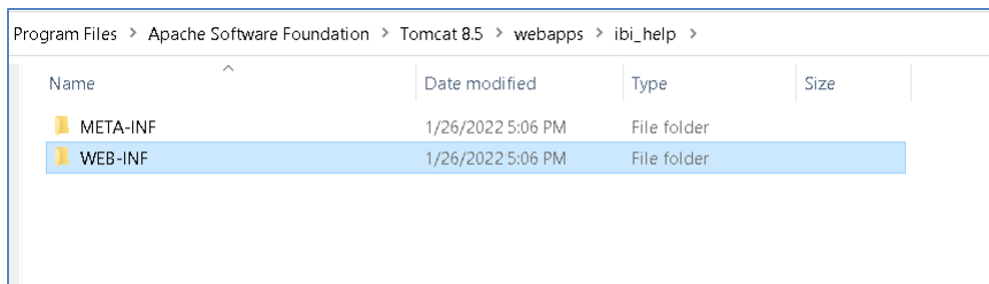
次の手順は、Tomcat のコンテキストファイルを使用して、App Studio オンラインヘルプを展開する方法を示しています。

1. Tomcat を停止して、Tomcat の [conf] ディレクトリに ibi_apphelp.xml コンテキストファイルを作成します (例、C:¥Program Files¥Apache Software Foundation¥Tomcat 8.5¥conf ¥Catalina¥localhost¥ibi_apphelp.xml)。
2. Tomcat の [conf] ディレクトリの ibi_apphelp.xml ファイルを編集し、必要な次の構文およびパラメータを追加します。この場合、docBase は App Studio オンラインヘルプ Web アプリケーションのパス、path は /ibi_apphelp です。以下はその例です。

```
<?xml version='1.0' encoding='utf-8'?>
<Context docBase="D:¥ashelp¥ibi_apphelp.war" path="/ibi_apphelp">
</Context>
```

この例では、ibi_apphelp.war ファイルは、D:¥ashelp¥ ディレクトリに格納されています。

3. 下図のように、Tomcat を起動し、ibi_apphelp.war が Tomcat で展開されていることを確認します。



4. ブラウザから次の URL を指定し、App Studio オンラインヘルプが利用可能であることを確認します。

http://servername:port/ibi_apphelp/index.jsp

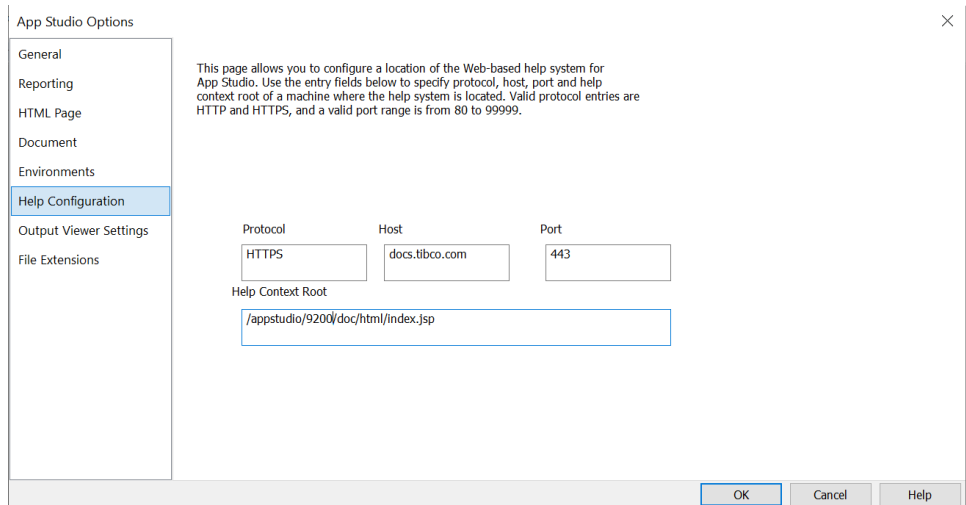
下図のように、App Studio オンラインヘルプが表示されます。



ヘルプの構成

1. App Studio を起動します。アプリケーションメニューアイコン  をクリックし、[オプション] を選択して [ヘルプの構成] をクリックします。

下図のように、App Studio の [ヘルプの構成] ダイアログボックスが表示されます。



2. オンプレミスオンラインヘルプ展開の情報を、[プロトコル]、[ホスト]、[ポート]、[ヘルプコンテキストルート] にそれぞれ入力します。

プロトコル - HTTP または HTTPS

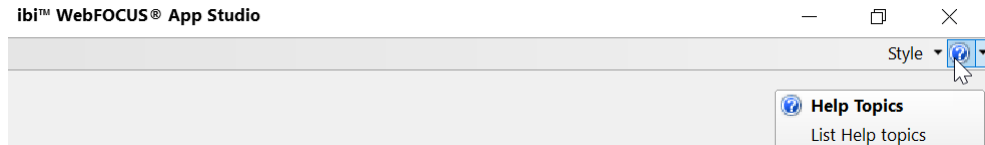
ホスト - App Studio オンラインヘルプ展開先の Application Server の名前

ポート - App Studio オンラインヘルプ展開先のポート番号

ヘルプコンテキストルート - /ibi_apphelp/index.jsp を指定

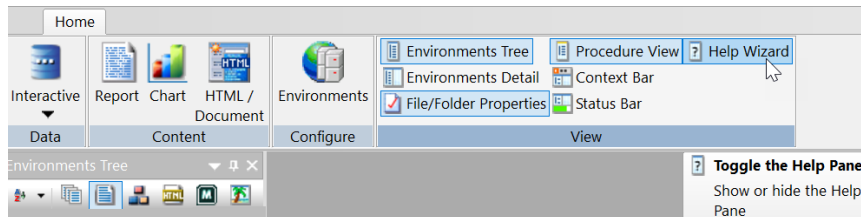
3. App Studio のヘルプメニューから App Studio オンラインヘルプがアクセス可能であることを確認します。

下図のように、App Studio ツールバーの [スタイル] メニュー横にある疑問符 (?) をクリックします。



App Studio オンラインヘルプの URL を使用して、ヘルプが表示されます。

4. 下図のように、[ホーム] タブの [表示] グループで、[ヘルプウィザード] オプションをクリックし、ヘルプウィンドウを有効にします。



[ヘルプウィザード] に App Studio オンライン ヘルプが表示されます。



WebFOCUS App Studio のトラブルシューティング

ここでは、App Studio のトラブルシューティングについて説明します。

トピックス

- ❑ [トラブルシューティングのヒント](#)
 - ❑ [WebFOCUS App Studio トレースユーティリティ](#)
-

トラブルシューティングのヒント

App Studio のトラブルシューティングの際は、次のことを確認してください。

起動の失敗

App Studio 製品の起動時に問題が発生した場合は、タスクバーの [スタート] ボタンをクリックし、インストール済みアプリケーションのリストで [ibi] アプリケーションを展開します。[WebFOCUS 92 App Studio] フォルダを選択後、[WebFOCUS App Studio ユーティリティ] フォルダをダブルクリックし、「WebFOCUS App Studio (セーフモード)」と呼ばれる実行ファイルを使用して製品を起動します。

App Studio が予期せず終了した場合は、ログファイルが生成され、収集した情報を分析のために弊社の技術サポートに送信することができます。この場合、メッセージとともに作成されたログファイルの格納先が表示されます。

App Studio のエラーに関するログファイル名は、AppStudioFault.log です。このファイルは、[ドキュメント] フォルダに保存されます。

[ドキュメント] フォルダは、個人データを保存するための統合された格納先として使用され、デフォルト設定で、ローカルマシンの C:¥Users¥user_ID¥Documents¥ フォルダに指定されています。この格納先は、別のフォルダ、ドライブ、またはネットワーク上の別のマシンを指定するよう構成することができます。企業によっては、[ドキュメント] フォルダの格納先がグループポリシーを使用して設定されており、プロパティが変更できない場合もあります。

WebFOCUS App Studio の開始

App Studio を終了した後、再起動できない場合、バックグラウンドで実行中の AppStudio.exe プロセスを手動で停止する必要があることが考えられます。手順は次のとおりです。

1. Ctrl + Alt + Delete キーを同時に押し、[タスクマネージャー] を選択します。
2. [プロセス] タブをクリックします。
3. [イメージ名] 内に [AppStudio.exe] があることを確認し、これを選択します。

注意: [イメージ名] の列をクリックすると、項目を名前の順にソートすることができます。

4. [プロセスの終了] をクリックします。

AppStudio.exe プロセスが終了すると、App Studio の再起動が可能になります。

WebFOCUS App Studio で複数ブラウザサポートを有効にする手動登録

開発者は、レポートを実行する際に、Chrome、Firefox、Edge のいずれかを使用することができます。

Chrome または Firefox を使用するには、製品に同梱されている IBIWebBrowserDrivers_dotnet_35.dll .NET モジュールの登録が必要です。

このファイルを登録するには、.NET バージョン 4.0 が必要です。このバージョンの .NET は、ほとんどのマシンに事前にインストールされています。このバージョンの .NET がマシンにインストールされていない場合は、App Studio のインストールプロセス中にインストールされ、複数ブラウザのサポートに必要なモジュールが登録されます。

モジュールの登録に失敗した場合、開発者はブラウザを切り替えることはできません。この問題を解決するには、開発者自身で必要なモジュールを手動で登録する必要があります。この登録を行うには、[管理者として実行] オプションを使用してコマンドウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
%SystemRoot%\Microsoft.NET\Framework64\v4.0.30319\RegAsm  
C:\ibi\AppStudio92\bin\ibiwebbrowserdrivers_dotnet_35.dll /u
```

ファイルが正常に登録解除されたことを示すメッセージが表示されます。

続いて次のコマンドを実行します。

```
%SystemRoot%\Microsoft.NET\Framework64\v4.0.30319\RegAsm  
C:\ibi\AppStudio92\bin\ibiwebbrowserdrivers_dotnet_35.dll
```

ファイルが正常に登録されたことを示すメッセージが表示されます。

説明

%SystemRoot%

マシン上の Windows フォルダのパスです。この値は、ドライブ名を含めたフォルダパスです。通常は C ドライブです。たとえば、「C:\Windows」です。

注意

- ❑ App Studio のインストール先に応じて、上記コマンドのパスを調整します。
- ❑ このマニュアルでは上記のコマンドは 2 行に記述されていますが、実際には 1 行のコマンドとして発行する必要があります。

Selenium ソフトウェアおよびドライバ実行ファイルの更新

Selenium は、Web ブラウザの自動操作専用のツール群です。Selenium サポートは、App Studio に同梱されていますが、ユーザーが新しいブラウザバージョンをインストールした場合、WebFOCUS App Studio で正しく動作しない場合があります。その場合、Selenium サポートモジュールを手動で更新すると、問題が解決することがあります。

手順

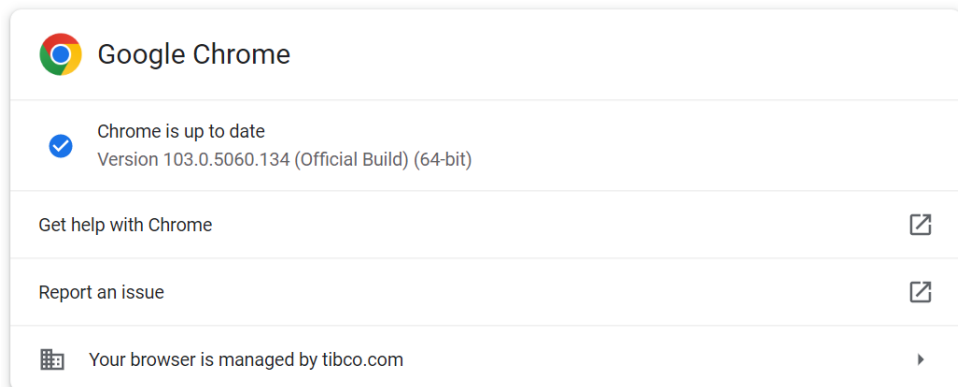
Selenium ソフトウェアおよびドライバ実行ファイルを更新するには

1. 使用するマシンのブラウザバージョンを確認します。
2. 使用するマシンのブラウザバージョンに対応するドライババージョンをダウンロードします。

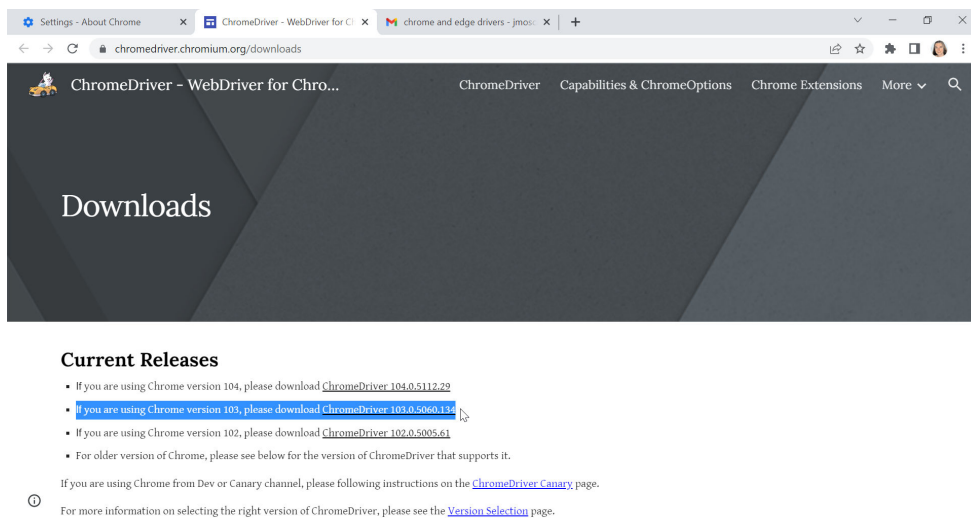
Google Chrome の場合

<https://chromedriver.chromium.org/downloads> に移動し、[ヘルプ]、[Google Chrome について] オプションから、マシンで使用されている Google Chrome のバージョンを確認して、対応するドライバをダウンロードします。

下図は、[Chrome について] ダイアログボックスの例を示しています。



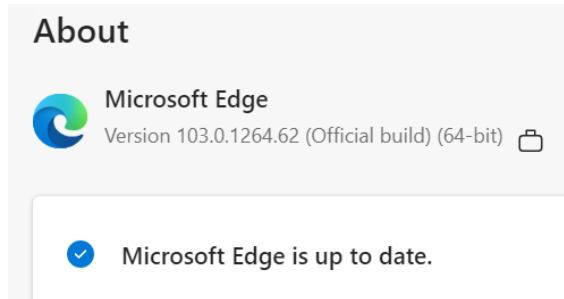
下図は、Google Chrome の [Downloads] 画面の例を示しています。



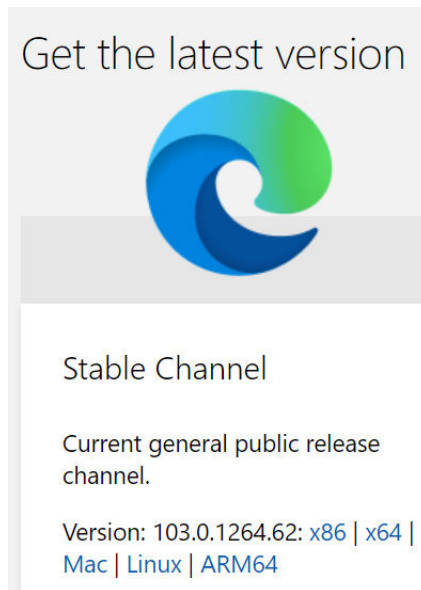
Microsoft Edge の場合

使用する App Studio のバージョンで Microsoft Edge がサポートされる場合、<https://developer.microsoft.com/en-us/microsoft-edge/tools/webdriver/> に移動し、[ヘルプとフィードバック]、[Microsoft Edge について] オプションから、マシンで使用されている Microsoft Edge のバージョンを確認して、対応するドライバをダウンロードします。

下図は、[バージョン情報] ダイアログボックスの例を示しています。



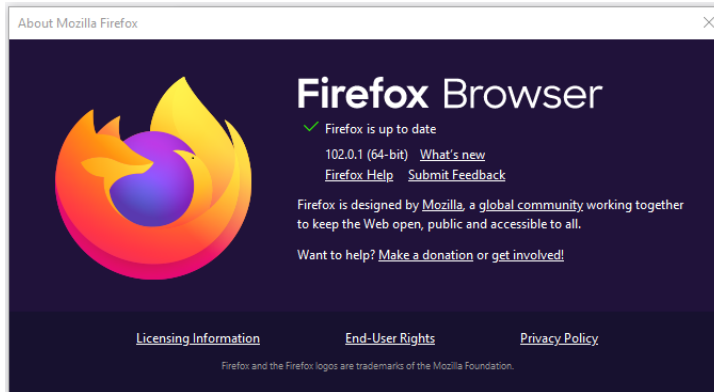
下図は、Microsoft Edge WebDriver の [Get the latest version] セクションを示しています。



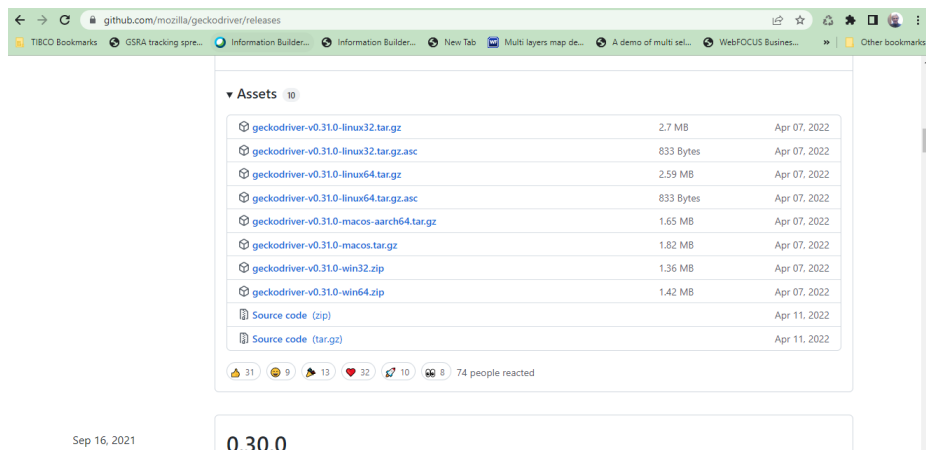
Mozilla Firefox の場合

「<https://github.com/mozilla/geckodriver/releases>」に移動し、[ヘルプ]、[Firefox について] オプションから、マシンで使用されている Mozilla Firefox のバージョンを確認して、対応するドライバをダウンロードします。

下図は、[Mozilla Firefox について] ダイアログボックスを示しています。



下図は、Mozilla Firefox の [Assets] セクションを示しています。



3. ダウンロードした zip ファイルを解凍します。

ブラウザによって、ダウンロード済みの zip ファイルには以下のいずれかのファイルが含まれます。

- ☐ Google Chrome の場合、chromedriver.exe ファイル。
- ☐ Microsoft Edge の場合、msedgedriver.exe ファイル。
- ☐ Mozilla Firefox の場合、geckodriver.exe ファイル。

4. App Studio を終了し、.exe ファイルを App Studio インストールの bin ディレクトリにコピーします (例、C:\ibi¥AppStudio92¥bin)。

WebFOCUS App Studio トレースユーティリティ

App Studio のトレースユーティリティ (通信レイヤトレース) を使用すると、App Studio 開発環境の通信レイヤにより実行されたタスクのトレースが生成されます。このユーティリティは、App Studio によるリクエストの実行または抽出時に、この製品により実行されたタスクについての情報を記録します。

このユーティリティを使用して、通信エラーや接続、ファイルの転送などについての問題を解決することができます。

起動時に発生する可能性のある問題のトレースを生成するには、App Studio を起動する前にトレースユーティリティを起動する必要があります。

データサーバへの接続失敗のトレースを生成する場合、またはアプリケーションが表示されない原因を特定する場合は、失敗するタスクを実行する前の時点でトレースを起動して有効にしておく必要があります。

手順 通信レイヤトレースを使用するには

1. タスクバーの [スタート] ボタンをクリックします。
2. インストール済みアプリケーションのリストから、[ibi] アプリケーションを展開します。
3. [WebFOCUS 92 App Studio] フォルダを選択します。

新しい [エクスプローラ] ウィンドウが開き、製品のショートカットがすべて表示されます。

4. [WebFOCUS App Studio ユーティリティ] フォルダをダブルクリックし、[通信レイヤトレース] を選択して通信レイヤトレースを起動します。

[通信レイヤトレース] ツールが起動します。

5. [オン] ラジオボタンをクリックして、トレースを有効にします。
6. [トレースファイル] テキストボックスには、トレースファイルの場所と名前が入力されています。

`drive:¥Users¥user_id¥AppData¥Roaming¥Information Builders¥wfscm.trc`

説明

`user_id`

Windows のユーザ ID です。

注意: AppData ディレクトリは、デフォルト設定では表示されない場合があります。このディレクトリを表示するには、[エクスプローラ] を開き、[表示] タブを選択後、[隠しファイル] の項目を選択します。

7. [トレースの表示] をクリックして、作成済みトレースを表示します。ファイルがテキストエディタで開きます。必要に応じて、別の場所にファイルを保存することもできます。
8. [トレースレベル] グループの選択をデフォルト設定の [すべてのレベル] のままにすると、必要なすべての情報が記録されます。ここで特定のトレースレベルを指定することもできます。

Legal and Third-Party Notices

SOME CLOUD SOFTWARE GROUP, INC. (“CLOUD SG”) SOFTWARE AND CLOUD SERVICES EMBED, BUNDLE, OR OTHERWISE INCLUDE OTHER SOFTWARE, INCLUDING OTHER CLOUD SG SOFTWARE (COLLECTIVELY, “INCLUDED SOFTWARE”). USE OF INCLUDED SOFTWARE IS SOLELY TO ENABLE THE FUNCTIONALITY (OR PROVIDE LIMITED ADD-ON FUNCTIONALITY) OF THE LICENSED CLOUD SG SOFTWARE AND/OR CLOUD SERVICES. THE INCLUDED SOFTWARE IS NOT LICENSED TO BE USED OR ACCESSED BY ANY OTHER CLOUD SG SOFTWARE AND/OR CLOUD SERVICES OR FOR ANY OTHER PURPOSE.

USE OF CLOUD SG SOFTWARE AND CLOUD SERVICES IS SUBJECT TO THE TERMS AND CONDITIONS OF AN AGREEMENT FOUND IN EITHER A SEPARATELY EXECUTED AGREEMENT, OR, IF THERE IS NO SUCH SEPARATE AGREEMENT, THE CLICKWRAP END USER AGREEMENT WHICH IS DISPLAYED WHEN ACCESSING, DOWNLOADING, OR INSTALLING THE SOFTWARE OR CLOUD SERVICES (AND WHICH IS DUPLICATED IN THE LICENSE FILE) OR IF THERE IS NO SUCH LICENSE AGREEMENT OR CLICKWRAP END USER AGREEMENT, THE LICENSE(S) LOCATED IN THE “LICENSE” FILE(S) OF THE SOFTWARE. USE OF THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THOSE SAME TERMS AND CONDITIONS, AND YOUR USE HEREOF SHALL CONSTITUTE ACCEPTANCE OF AND AN AGREEMENT TO BE BOUND BY THE SAME.

This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of Cloud Software Group, Inc.

ibi, ibi logo, ActiveMatrix BusinessWorks, TIBCO Administrator, BusinessConnect, TIBCO Designer, Enterprise Message Service, Hawk, and Maporama are either registered trademarks or trademarks of Cloud Software Group, Inc. in the United States and/or other countries.

Java and all Java based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates.

All other product and company names and marks mentioned in this document are the property of their respective owners and are mentioned for identification purposes only.

Cloud SG software may be available on multiple operating systems. However, not all operating system platforms for a specific software version are released at the same time. See the “readme” file for the availability of a specific version of Cloud SG software on a specific operating system platform.

THIS DOCUMENT IS PROVIDED “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT.

THIS DOCUMENT COULD INCLUDE TECHNICAL INACCURACIES OR TYPOGRAPHICAL ERRORS. CHANGES ARE PERIODICALLY ADDED TO THE INFORMATION HEREIN; THESE CHANGES WILL BE INCORPORATED IN NEW EDITIONS OF THIS DOCUMENT. CLOUD SG MAY MAKE IMPROVEMENTS AND/OR CHANGES IN THE PRODUCT(S), THE PROGRAM(S), AND/OR THE SERVICES DESCRIBED IN THIS DOCUMENT AT ANY TIME WITHOUT NOTICE.

THE CONTENTS OF THIS DOCUMENT MAY BE MODIFIED AND/OR QUALIFIED, DIRECTLY OR INDIRECTLY, BY OTHER DOCUMENTATION WHICH ACCOMPANIES THIS SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY RELEASE NOTES AND "README" FILES.

This and other products of Cloud SG may be covered by registered patents. For details, please refer to the Virtual Patent Marking document located at <https://www.tibco.com/patents>.

Copyright © 2023. Cloud Software Group, Inc. All Rights Reserved.